

コンベンショナル（CV）動物施設



●施設整備の目的

本学の強みである脳科学領域の研究・教育基盤の全学的な強化・促進を目的として、自閉症モデルマウスを始めとする遺伝子改変マウスを用いた行動実験・解析をストレスなく進める為、検疫を必要としないコンベンショナル（CV）動物飼育設備を計画した。

また、研究・教育の拠点としての基盤強化を視野に入れ、行動・生理学実験等に用いる共同実験室とプロジェクト室を整備する。

そこへ、がん組織を特定するためのPETプローブ開発研究を推進させる為の、当該研究に用いるマウスの飼育施設には個別換気ゲージシステムを導入する。

これにより、福井大学の研究・教育機能の強化、研究・教育拠点機能の一層の向上を目指した。

●建物概要

構造・階数：鉄骨造・平屋建て

延べ面積：180.97㎡

用途：大学（研究施設）

部屋の構成：研究スペース(1),(2)、飼育室(1),(2)、洗浄室兼倉庫(清)、倉庫(汚)

廊下・風除室、空調機械室

主な仕上げ：【屋根】ガルバリウム鋼板折板葺き

【外壁】窯業系サイディングボード張り

【床】コンクリート金ゴテ押えの上、ビニルシート貼り

（一部、防塵塗床仕上げ）



● 設計方針

【設計主旨】

今回は研究施設ということで、見た目の派手さは求めず、ユーザーである研究員の動線や実験機器の配置を重視した間取りとした。また、クリーンエリアとダーティーエリアを明確にし、清浄な空間を創出することとした。

動物を用いた研究施設のため、床は汚れが付きにくく、薬品への耐性の高いビニルシートを採用した。また、隣接施設に対するマウスの臭い対策として、オゾン発生装置を用いた脱臭機を取り入れた。

【色彩計画】

当施設の西側には看護学科棟、東側には生物資源棟があり、どちらもアイボリーを基調とした外観となっていることから、当施設も外壁をアイボリーとし、まわりとの調和を図った。

内部の仕上げは天井面は清潔な白色を、壁面はストレスを感じないアイボリーを、床面は汚れが目立ちにくいライトグレーを採用した。

【環境配慮】

建物の断熱性・気密性を高める為、天井裏及び壁の下地にグラスウール（壁：t50、天井裏：t100）と気密シート（t0.2）を設置し、床のコンクリート下に断熱材（押出法ポリスチレンフォーム保温板：t25）を敷き込んだ。

また、外壁面の建具にはペアガラス（FL3+6+FL3）を採用した。

さらに、建物内の照明設備はLED照明・人感センサーを採用。研究スペースの換気設備には全熱交換機を採用し、建物全体で省エネルギーに配慮した。

